

令和4年3月 博士前期課程・修士課程修了確定者アンケート集計結果

- ◎概要 本学の教育システムの成果を評価し、教育研究活動の改善に反映させるため、実際に本学で教育を受け、研究に従事した修了確定者に対しアンケートを実施した。
- ◎実施期間 令和4年2月25日から令和4年3月24日（学位記授与式）まで
- ◎実施方法 理事（教育、学生担当）・副学長名でアンケートの実施を電子メールで通知し、webによる回答として実施した。
- ◎調査対象 （学位別）知識60名、情報69名、マテリアルサイエンス69名、融合6名 合計204名

◎回答者人数

学位	人数	回答率
知識科学	41	68%
情報科学	50	72%
マテリアルサイエンス	50	72%
融合科学	5	83%
合計	146	72%

各項目の無回答分は集計から除いている。

学生種別	人数
外国人留学生	54
寄宿舍居住者	56
社会人	23
東京サテライト	14
学内進学予定者	23

(参考)

令和2年		令和3年	
人数	回答率	人数	回答率
54	71%	59	88%
66	69%	101	88%
43	60%	57	81%
6	75%	5	71%
163	65%	217	84%

(参考)

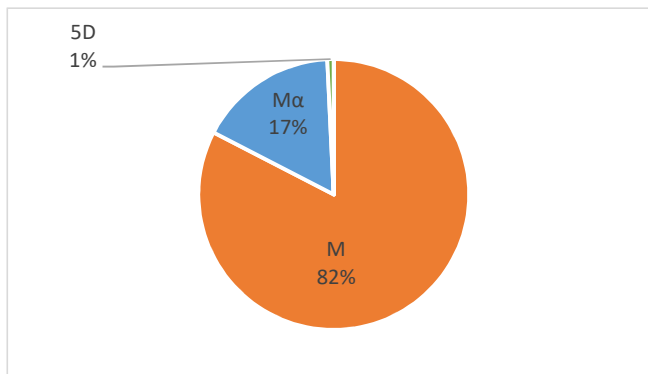
令和2年	令和3年
人数	人数
—	68
91	94
25	27
16	21
24	31

※各項目ごとの回答のうち、直近3年間における肯定的な回答（「とても良い+良い」等）の比率を比較した表をグラフ下に記載。

< I 教育システムについて >

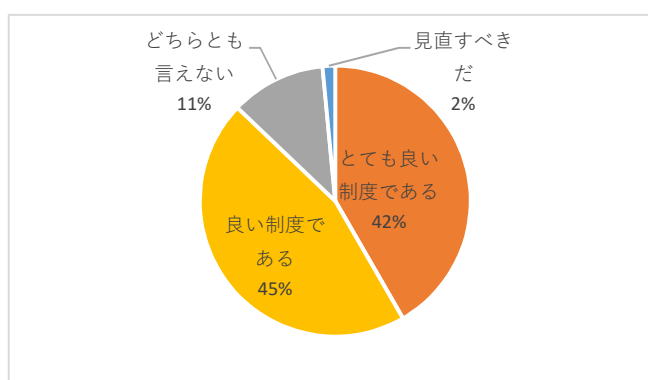
1. 本学では、学部3年から飛び入学後、4年間での一貫的な博士教育（SDプログラム）、最先端の高度な科学技術の習得を目指す者を対象とした5年一貫的な博士教育（5Dプログラム）、分野を変えて新たな専門分野に挑戦する者を対象とした2年3カ月～3年間の修士教育（Mαプログラム）の教育プログラムを準備し、高度できめ細かい教育を提供しています。あなたが選択したのはどの教育プログラムですか。

M	109
Mα	22
5D	1



2. 本学では、単位制度を徹底するために専門科目の授業は極力午前中に開講し、午後は個別指導を行うためのチュートリアルアワーと教室外における準備学習・復習の自学自習時間、及びグローバルコミュニケーションセンター開講科目、その他の科目等の開講に充てています。この制度についてどう思いますか。

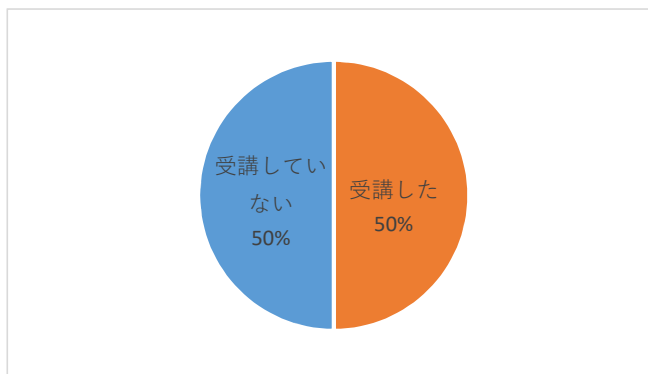
とても良い制度である	55
良い制度である	60
どちらとも言えない	15
見直すべきだ	2



令和2年		令和3年		令和4年	
129/148	87%	174/194	90%	115/132	87%

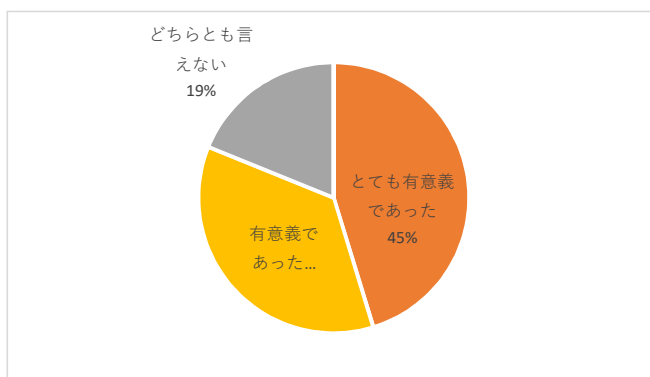
3. グローバルコミュニケーションセンター開講科目についてお聞きます。Lxxx 科目、Exxx 科目、Jxxx 科目、Gxxx 科目の開講科目を受講しましたか。

受講した	66
受講していない	66



4. グローバルコミュニケーションセンター開講科目群のうち Exxx 科目の受講者にお聞きます。あなたの英語力向上に有意義なものでしたか。

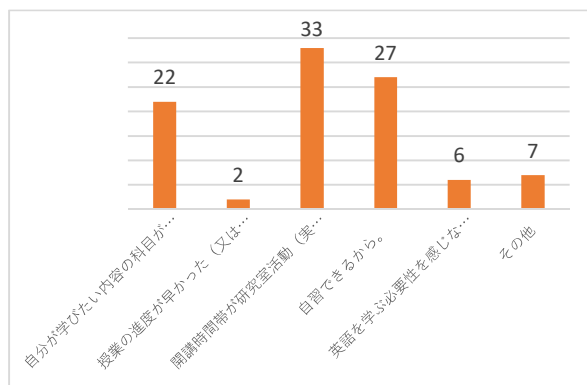
とても有意義であった	24
有意義であった	19
どちらとも言えない	10
有意義ではなかった	0



令和2年		令和3年		令和4年	
63/91	69%	62/79	78%	43/53	81%

5. Exxx 科目を受講しなかった方にお聞きます。受講しなかった理由を教えてください。（複数回答可）

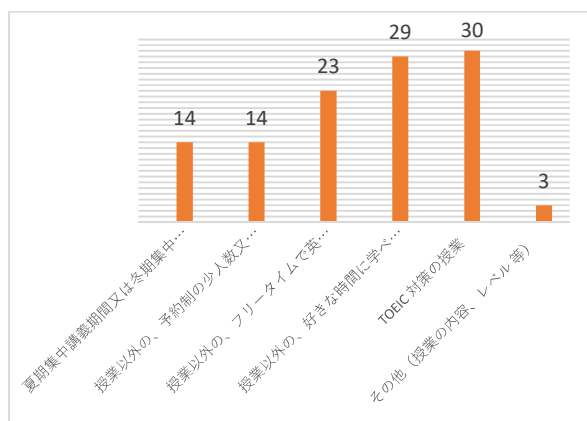
自分が学びたい内容の科目がなかったから。	22
授業の進度が早かった（又は遅かった）から	2
開講時間帯が研究室活動（実験、実習、ゼミ等）と重複していたから。	33
自習できるから。	27
英語を学ぶ必要性を感じなかったから。	6
その他	7



（その他）
 コロナウイルスのため
 空き時間ができる
 研究をしたかったから
 受講予定に考えていた時期に開講できなかったから
 中学レベルからやり直しができるプログラムがなかった
 他授業と時間帯が重複？興味があったが必要単位として認められる数にG科目で既に達したから。

6. Exxx 科目を受講しなかった方にお聞きます。英語力向上のために、提供されていれば受講した、又は、利用したと思うものを選んでください。（複数回答可）

夏期集中講義期間又は冬期集中講義期間に開講するテクニカル英語科目	14
授業以外の、予約制の少人数又はマンツーマンのレッスン	14
授業以外の、フリータイムで英会話を学べる機会（英会話サロン等）	23
授業以外の、好きな時間に学べるオンラインレッスン	29
TOEIC 対策の授業	30
その他（授業の内容、レベル等）	3



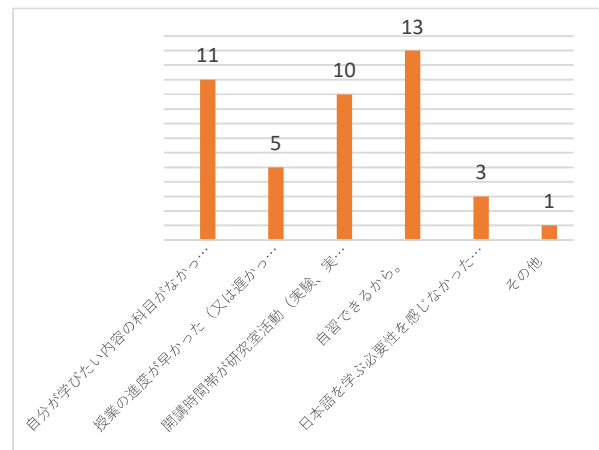
（その他）
 TOEFLの授業が欲しいです
 中学レベルから学び治せるプログラムが存在しない
 研究室で英語を使用していたので私の場合必要ありませんでした。

7. 外国人留学生の方で、Jxxx 科目を受講しなかった方にお聞きします。受講しなかった理由を教えてください。（複数回答可）

自分が学びたい内容の科目がなかったから。	11
授業の進度が早かった（又は遅かった）から。	5
開講時間帯が研究室活動（実験、実習、ゼミ等）と重複していたから。	10
自習できるから。	13
日本語を学ぶ必要性を感じなかったから。	3
その他	1

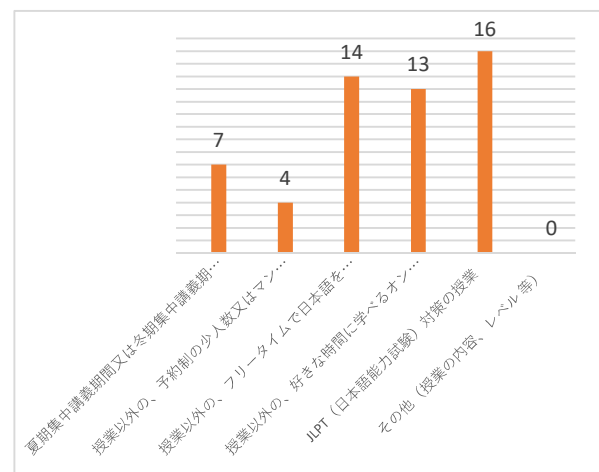
（その他）

i didn't have time. I am planning to take during my phd years



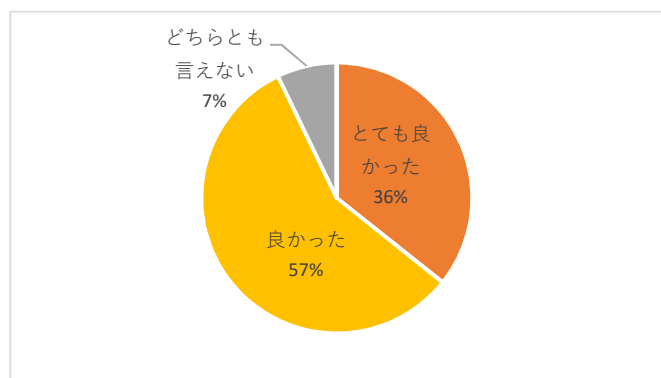
8. 外国人留学生の方で、Jxxx 科目を受講しなかった方にお聞きします。日本語力向上のために、提供されていれば受講した、又は、利用したと思うものを選んでください。（複数回答可）

夏期集中講義期間又は冬期集中講義期間に開講するテクニカル日本語科目	7
授業以外の、予約制の少人数又はマンツーマンのレッスン	4
授業以外の、フリータイムで日本語を学ぶ機会（日本語による会話サロン等）	14
授業以外の、好きな時間に学ぶオンラインレッスン	13
JLPT（日本語能力試験）対策の授業	16
その他（授業の内容、レベル等）	0



10. 社会人コース（東京サテライト）の修了者にお聞きします。授業や研究指導はどうでしたか。

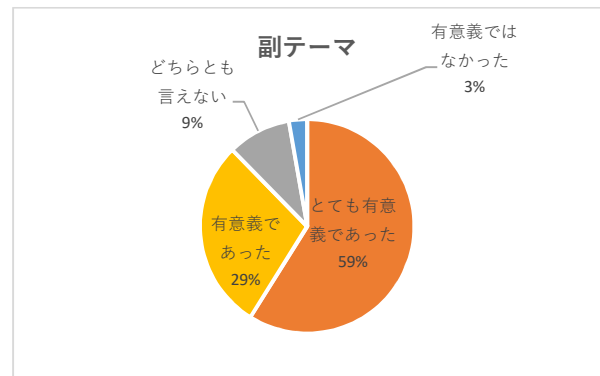
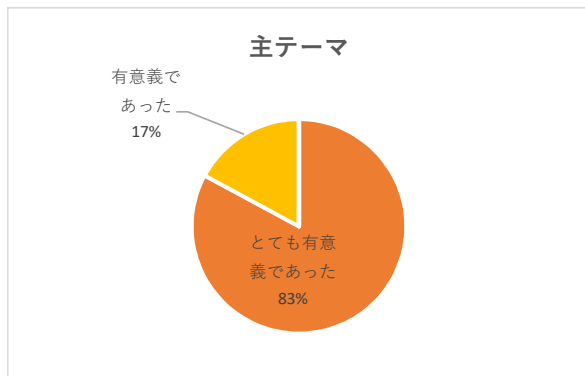
とても良かった	5
良かった	8
どちらとも言えない	1
悪かった	0



令和2年		令和3年		令和4年	
16/16	100%	22/22	100%	13/14	93%

12. 本学では、幅広い基礎知識と能力の修得のため、主テーマ研究の他に副テーマ研究を設け、見識を広めて主テーマ研究に活かす制度をとっています。この主テーマ・副テーマ制度は、あなたにとって有意義な制度でしたか。※以下、取得学位が修士（融合科学）の修了者は、主テーマ研究を主任研究指導教員との研究、副テーマ研究をラボローテーション時の指導教員との研究に読み替え願います。

	主テーマ	副テーマ
とても有意義であった	121	86
有意義であった	25	42
どちらとも言えない	0	14
有意義ではなかった	0	4

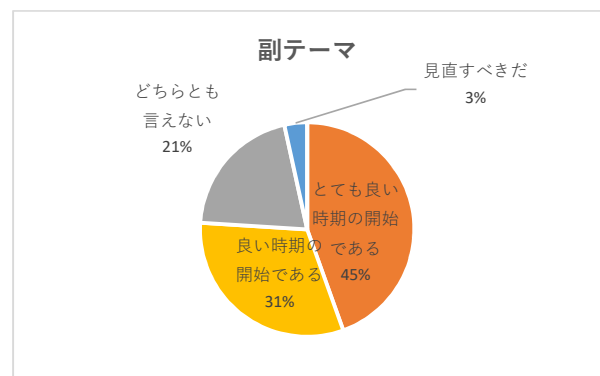
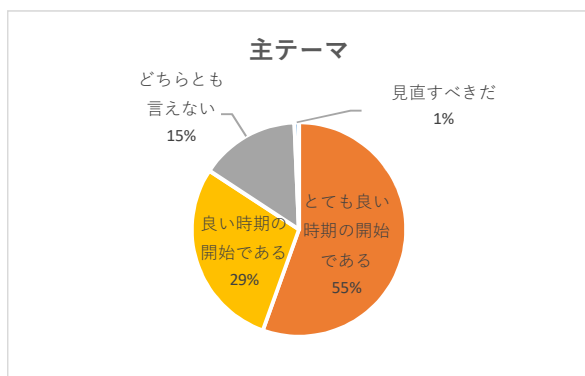


主テーマ研究	令和2年		令和3年		令和4年	
	157/161	98%	207/213	97%	146/146	100%

副テーマ研究	令和2年		令和3年		令和4年	
	127/161	79%	184/213	86%	128/146	88%

13. 主テーマ研究及び副テーマ研究の開始時期についてどう思いますか。

	主テーマ	副テーマ
とても良い時期の開始である	81	65
良い時期の開始である	42	46
どちらとも言えない	22	30
見直すべきだ	1	5

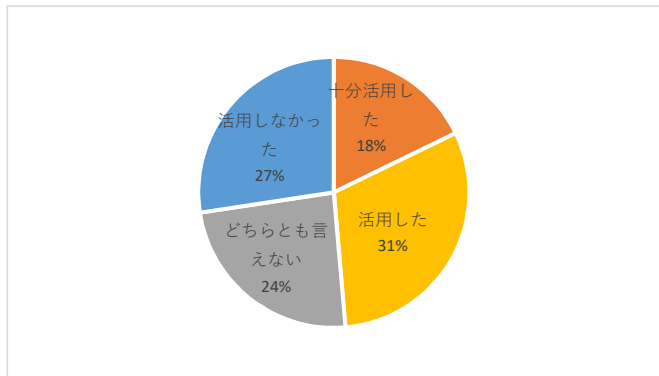


主テーマ研究	令和2年		令和3年		令和4年	
	114/161	71%	168/213	79%	123/146	84%

副テーマ研究	令和2年		令和3年		令和4年	
	97/161	60%	165/213	77%	111/146	76%

14. 本学では、計画的な履修を促すため、学修計画・記録書の作成を求めています。この学修計画・記録書は十分活用されましたか。

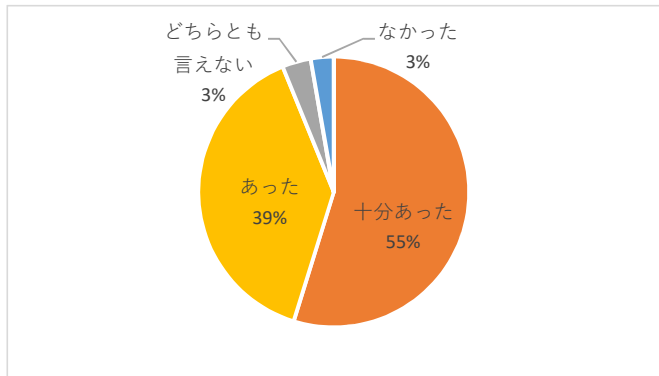
十分活用した	26
活用した	45
どちらとも言えない	35
活用しなかった	40



令和2年		令和3年		令和4年	
54/161	34%	88/213	41%	71/146	49%

15. 本学では、主体的な学修を促す仕組み（ゼミでの発表、授業におけるレポート提出、学生グループによる取組等）があったと思いますか。

十分あった	80
あった	57
どちらとも言えない	5
なかった	4



令和2年		令和3年		令和4年	
147/161	91%	193/213	91%	137/146	94%

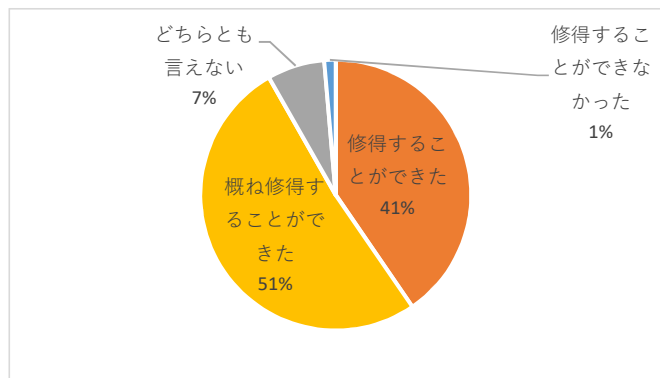
16. 本学では、大学院大学として世界に通用する「知的にたくましい」人材の育成を掲げ、次のようなプログラム展開を行っています。

○「人間力強化プログラム」 「人間力」とは、「知的能力」、「社会対人能力」、「自己制御能力」の3要素からなり、本プログラムでは、知識科学の方法論に基づいた人間力強化の教育プログラムを、学術科目や広域科目の中で実施し、キーコンピテンシー（聴く力・考える力・伝える力・挑む力・進める力）を養成する。 個々人の学習（方法論の双方向講義）、グループワーク（自律学習）、ダブルループラーニングによる学修を行うことにより、『幅広い視野と論理的思考力』、『コミュニケーションとリーダーシップ』、『主体性と忍耐力』を養う。

○「創出力強化プログラム」 「創出力」とは、「創造性」、「ものづくり」、「知識基盤社会」の3要素からなり、本プログラムでは、知識科学の方法論に基づいた専門知識を発展させることができる創出力の強化を、階層化された基幹科目や展開科目の履修及び研究指導の中で実施する。体系的な専門性を重視し、基幹科目、展開科目、先端科目を拡充して、学生が自律的に到達度を高められる教育を実践することにより、『発想力と評価力』、『情報収集力と計画力』、『表現力』を養う。

あなたにとって、本学の博士前期課程は、『「知的にたくましい」人材の養成に沿った教育』を受けることにより、上記のような力を修得することができましたか。

修得することができた	59
概ね修得することができた	75
どちらとも言えない	10
修得することができなかった	2



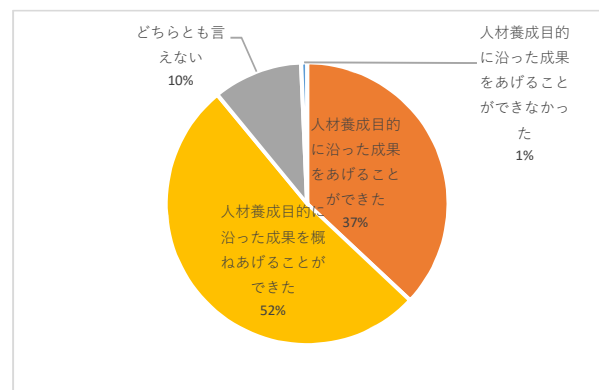
令和2年		令和3年		令和4年	
113/130	87%	192/213	90%	134/146	92%

17. 本学では、次のような人材養成目的を掲げています。

・先端科学技術研究科：本学は、先端科学技術分野の基礎概念を理解し、その上で専門知識を活用する能力、多様な文化に対する理解力とコミュニケーション能力及び高い倫理観を持ち、自らの専門性を社会で活用する視点を持ちつつ、幅広く関連分野を俯瞰して問題を発見し解決できる研究者、高度専門技術者を育成し、社会や産業界のリーダーとなる能力を養う。この目的に則して、各学位に対応し階層化された体系的な教育課程を編成する。

あなたにとって、本学の博士前期課程は、上記の「人材養成目的に沿った成果」をあげることができるものでしたか。

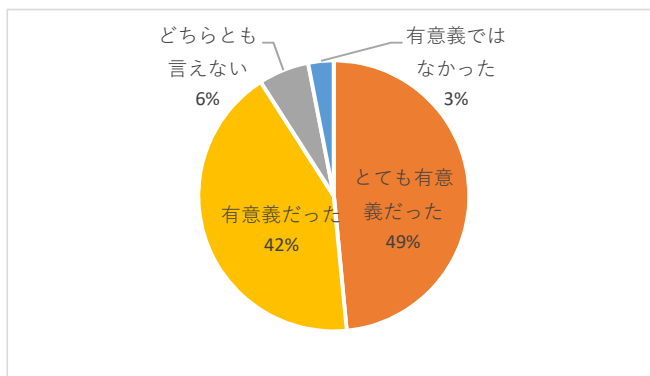
人材養成目的に沿った成果をあげることができた	54
人材養成目的に沿った成果を概ねあげることができた	76
どちらとも言えない	15
人材養成目的に沿った成果をあげることができなかった	1



令和2年		令和3年		令和4年	
140/161	87%	195/213	92%	130/146	89%

18. 【令和2年3月以前入学者対象】本学では、入学後1週間のオリエンテーションを実施し、学長講話、履修規則の説明、研究室紹介、各学系・センター企画、語学教育・海外派遣、学生生活ガイダンス、進路ガイダンスなど様々な企画を実施し、本学の教育内容等を研修するとともに学生同士の交流を図っています。あなたにとってこの取組は有意義なものでしたか。

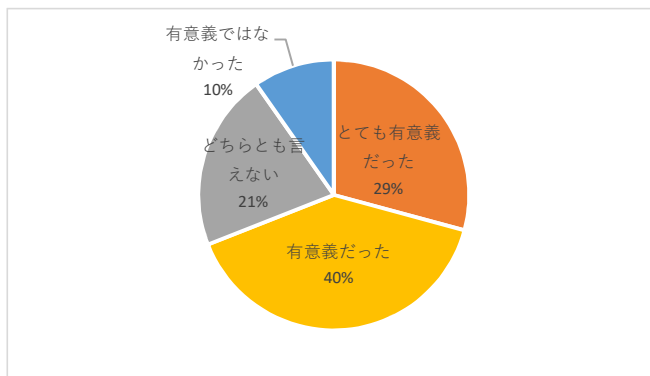
とても有意義だった	16
有意義だった	14
どちらとも言えない	2
有意義ではなかった	1



令和2年		令和3年		令和4年	
100/122	82%	192/213	90%	30/33	91%

19. 【令和2年4月以降入学者対象】令和2年4月以降の入学者については、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、オリエンテーションをオンラインで実施しました。あなたにとって、このオリエンテーションは有意義なものでしたか。

とても有意義だった	33
有意義だった	45
どちらとも言えない	24
有意義ではなかった	11

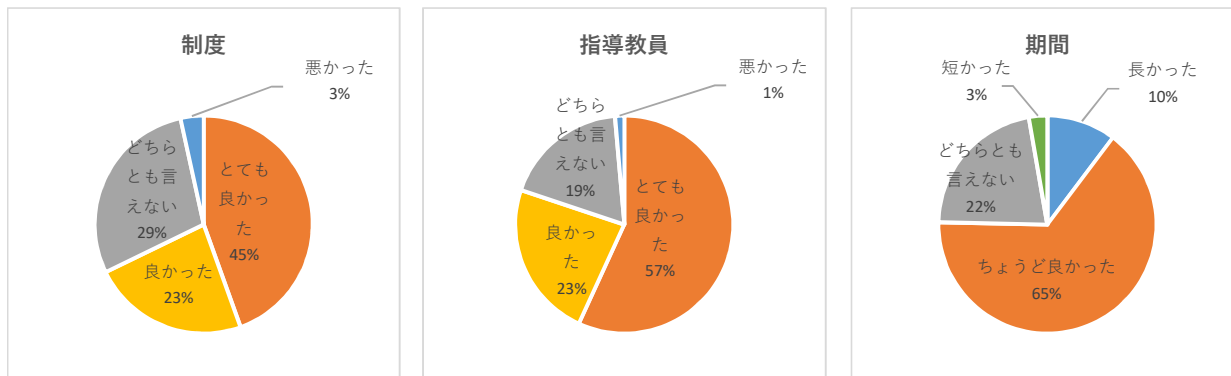


令和2年		令和3年		令和4年	
—	—	—	—	78/113	69%

< II 研究室指導体制について >

20. 導入配属（仮配属）について、どのような感想を持っていますか。

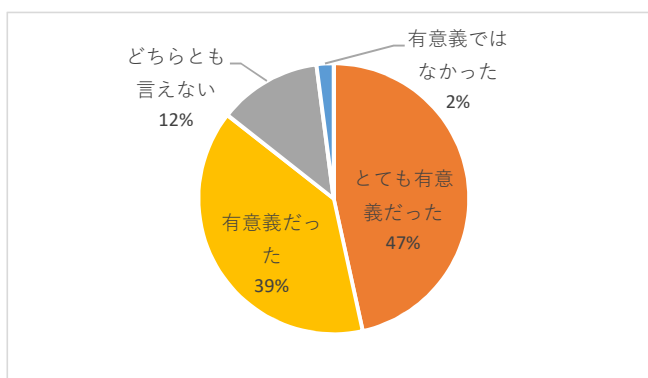
	制度	指導教員		期間
とても良かった	65	83	長かった	15
良かった	34	34	ちょうど良かった	95
どちらとも言えない	42	27	どちらとも言えない	32
悪かった	5	2	短かった	4



制度	令和2年		令和3年		令和4年	
	90/157	57%	138/210	66%	99/146	68%
指導教員	令和2年		令和3年		令和4年	
	125/157	80%	175/210	83%	117/146	80%
期間	令和2年		令和3年		令和4年	
	79/157	50%	112/210	53%	110/146	75%

21. 本学では、学生1人に対して主指導教員、副指導教員、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員の3人が様々な課題や立場から教育研究指導する複数教員指導制をとっています。この制度は、有意義な制度だと思いますか。該当の項目を選択してください。※以下、取得学位が修士（融合科学）の修了者は、主指導教員を主任研究指導教員、副指導教員を副主任研究指導教員、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員をラボローテーション時の指導教員に読み替え願います。

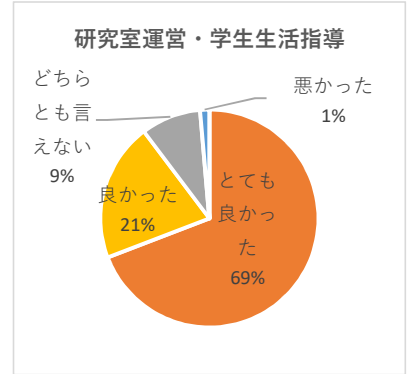
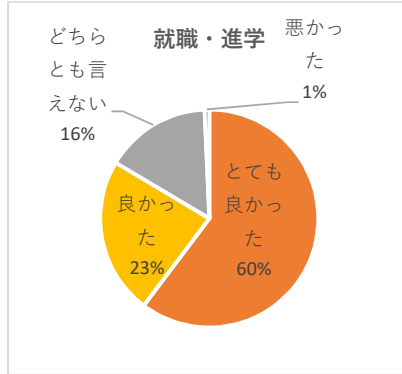
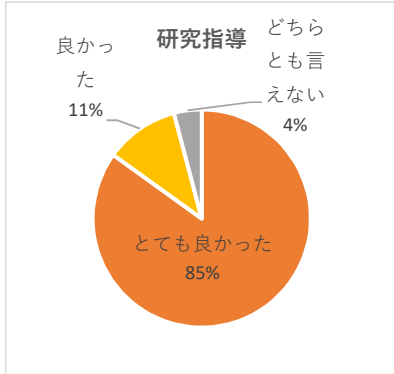
とても有意義だった	68
有意義だった	57
どちらとも言えない	18
有意義ではなかった	3



	令和2年		令和3年		令和4年	
	121/157	77%	180/210	86%	125/146	86%

22. 主指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

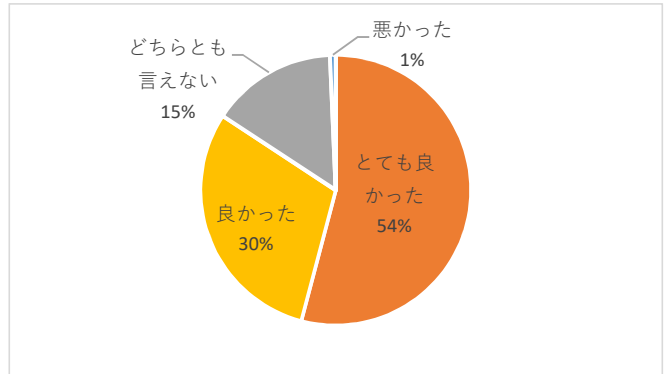
	研究指導	就職・進学	運営・指導
とても良かった	124	88	101
良かった	16	34	30
どちらとも言えない	6	23	13
悪かった	0	1	2



研究指導	令和2年		令和3年		令和4年	
	149/157	95%	196/210	93%	140/146	96%
就職指導	令和2年		令和3年		令和4年	
	130/157	83%	161/210	77%	122/146	83%
研究室運営・ 学生生活指導	令和2年		令和3年		令和4年	
	133/157	85%	179/210	85%	131/146	90%

23. 副指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

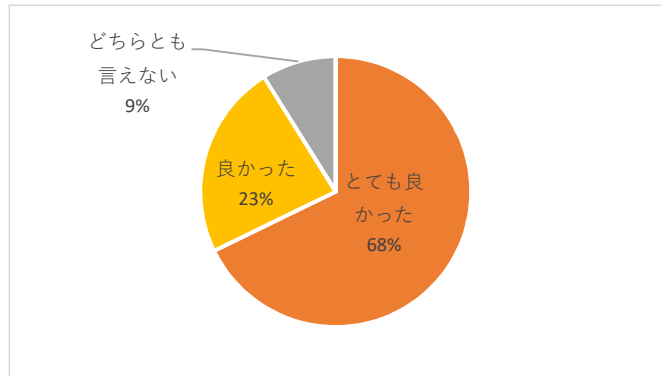
とても良かった	79
良かった	44
どちらとも言えない	22
悪かった	1



	令和2年	令和3年	令和4年			
	123/157	78%	171/210	81%	123/146	84%

24. 副テーマ指導教員又はインターシップ指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

とても良かった	99
良かった	34
どちらとも言えない	13
悪かった	0



令和2年		令和3年		令和4年	
135/157	86%	193/210	92%	133/146	91%

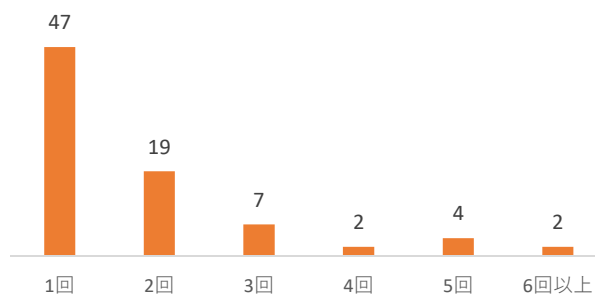
25. 本学在学中に学会発表は何回行いましたか。また、そのうち旅費等の助成を何回受けましたか。

【学会発表】

国内

1回	47
2回	19
3回	7
4回	2
5回	4
6回以上	2

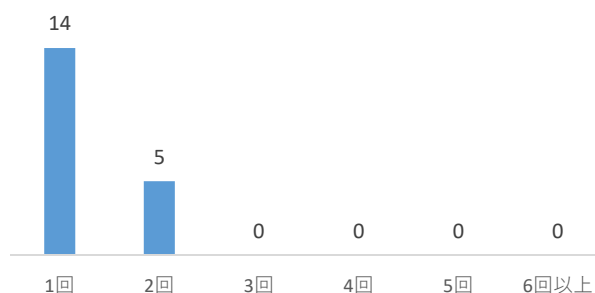
学会発表（国内）



海外

1回	14
2回	5
3回	0
4回	0
5回	0
6回以上	0

学会発表（海外）

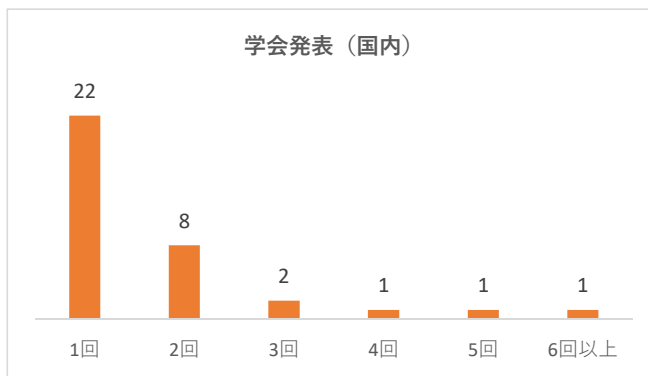


【うち費用助成あり】

国内

1回	22
2回	8
3回	2
4回	1
5回	1
6回以上	1

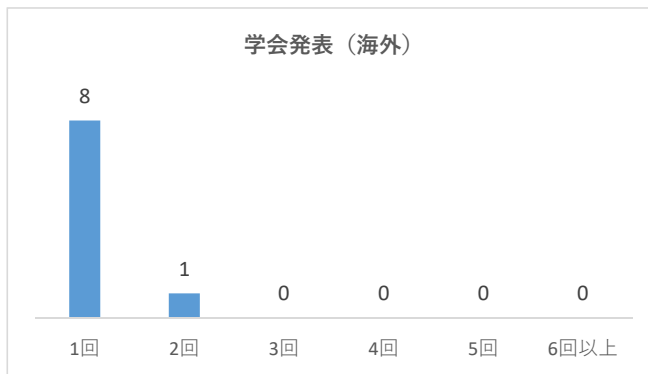
学会発表（国内）



海外

1回	8
2回	1
3回	0
4回	0
5回	0
6回以上	0

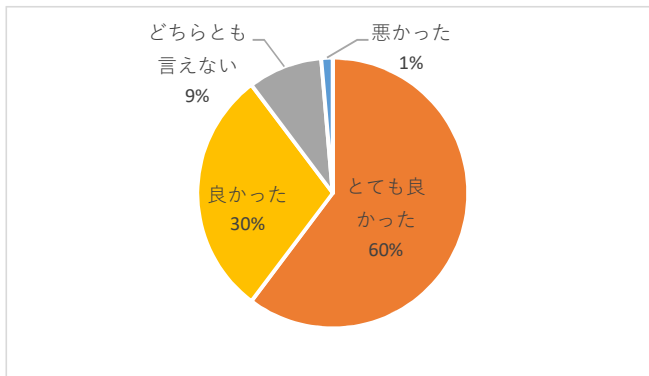
学会発表（海外）



<III 学生支援等について>

26. 教育支援課、学生・留学生支援課の事務職員の全体的な対応について、どのような感想を持っていますか。

とても良かった	88
良かった	43
どちらとも言えない	13
悪かった	2

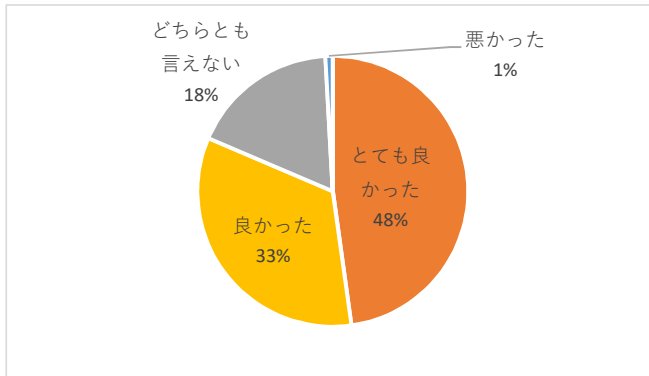


令和2年		令和3年		令和4年	
134/157	85%	182/207	88%	131/146	90%

<IV キャリア形成支援等について>

30. 本学では、全学一体となったキャリア形成支援・就職支援行事等を学生・留学生支援課就職支援室と就職担当教員が連携し実施しています。また、自由応募・推薦応募に対する支援体制の整備を進めてきました。これらの支援策について、どのような感想を持っていますか。

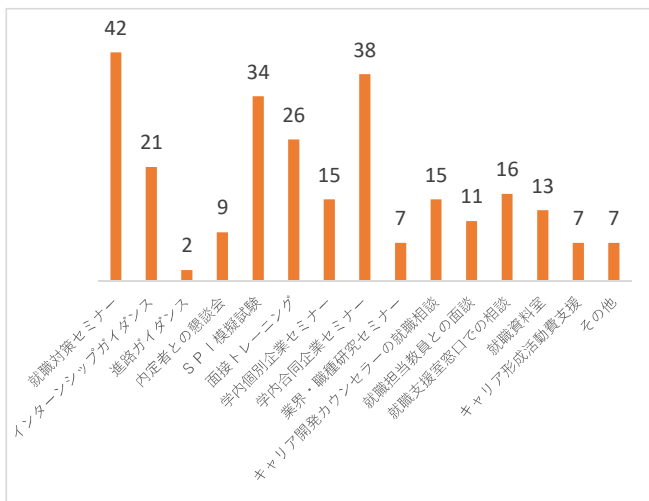
とても良かった	54
良かった	38
どちらとも言えない	20
悪かった	1



令和2年		令和3年		令和4年	
82/120	68%	127/162	78%	92/113	81%

31. 本学でのキャリア支援で、役立ったものを上位3つまで選択してください。

就職対策セミナー	42
インターンシップガイダンス	21
進路ガイダンス	2
内定者との懇談会	9
SPI模擬試験	34
面接トレーニング	26
学内個別企業セミナー	15
学内合同企業セミナー	38
業界・職種研究セミナー	7
キャリア開発カウンセラーの就	15
就職担当教員との面談	11
就職支援室窓口での相談	16
就職資料室	13
キャリア形成活動費支援	7
その他	7



(その他)

キャリアサポートシステム

まだわかりません

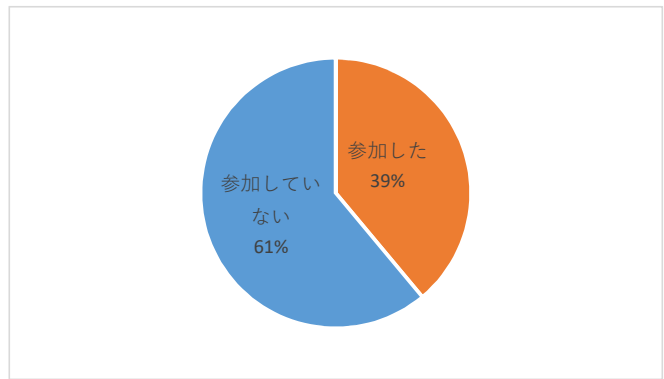
就職しないので評価できない

特に利用していない

役立ったものは特にありません

33. 在学中に企業インターンシップに参加しましたか。参加した場合には、参加企業数及び合計参加期間を記入してください。

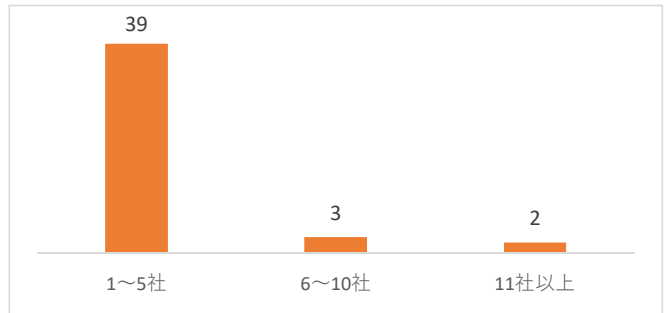
参加した	44
参加していない	69



(参加した44名について)

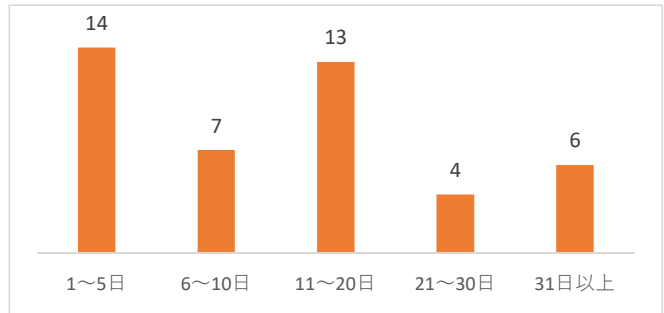
参加企業数

1～5社	39
6～10社	3
11社以上	2



参加日数

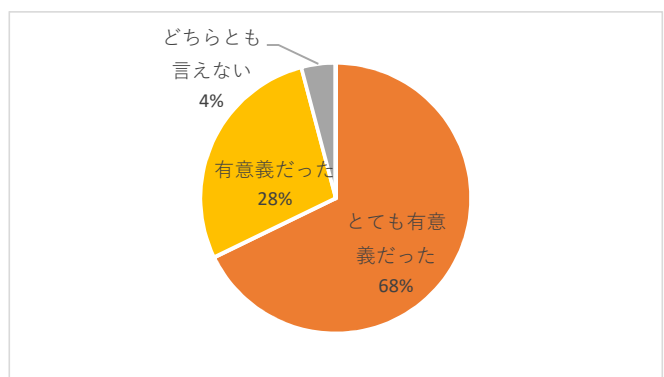
1～5日	14
6～10日	7
11～20日	13
21～30日	4
31日以上	6



< V 本学の満足度及び成果について >

33. あなたにとって本学の博士前期課程は有意義でしたか。

とても有意義だった	99
有意義だった	41
どちらとも言えない	6
有意義ではなかった	0



令和2年		令和3年		令和4年	
153/157	97%	197/206	96%	140/146	96%

令和4年3月 博士後期課程修了確定者アンケート集計結果

- ◎概要 本学の教育システムの成果を評価し、教育研究活動の改善に反映させるため、実際に本学で教育を受け、研究に従事した修了確定者に対しアンケートを実施した。
- ◎実施期間 令和4年2月25日から令和4年3月24日（学位記授与式）まで
- ◎実施方法 理事（教育、学生担当）・副学長名でアンケートの実施を電子メールで通知し、webによる回答として実施した。
- ◎調査対象 （学位別）知識8名、情報6名、マテリアルサイエンス17名 合計31名

◎回答者人数

学位	人数	回答率
知識科学	6	75%
情報科学	6	100%
マテリアルサイエンス	12	71%
合計	24	77%

各項目の無回答分は集計から除いている。

学生種別	人数
外国人留学生	20
寄宿舍居住者	6
社会人	0
東京サテライト	0
本学博士前期課程修了	6

(参考)

令和2年		令和3年	
人数	回答率	人数	回答率
5	100%	6	86%
6	100%	10	100%
8	89%	9	100%
19	95%	25	96%

(参考)

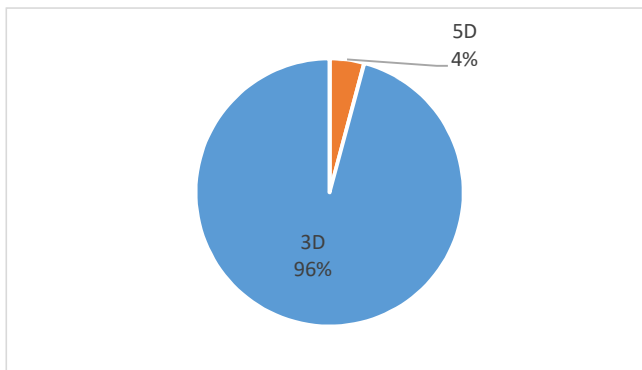
令和2年	令和3年
人数	人数
—	20
14	7
3	1
1	2
6	5

※各項目ごとの回答のうち、直近3年間における肯定的な回答（「とても良い+良い」等）の比率を比較した表をグラフ下に記載。

< I 教育システムについて >

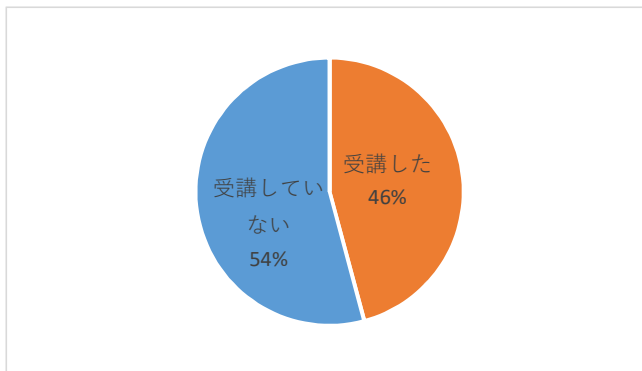
1. 本学では、学部3年から飛び入学後、4年間での一貫的な博士教育（SDプログラム）、最先端の高度な科学技術の習得を目指す者を対象とした5年一貫的な博士教育（5Dプログラム）を準備し、高度できめ細かい教育を提供しています。あなたが選択したのはどの履修プログラムですか。

5D	1
3D	23



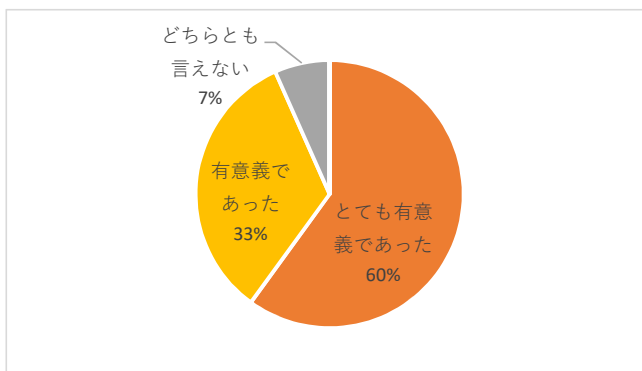
3. グローバルコミュニケーションセンター開講科目（旧先端領域基礎教育院科目を含む）等についてお聞きます。後期課程にとって、Lxxx 科目、Exxx 科目、Jxxx 科目、Gxxx 科目の開講科目は適切でしたか。

受講した	11
受講していない	13



4. グローバルコミュニケーションセンター開講科目群のうち Exxx 科目の受講者にお聞きます。あなたの英語力向上に有意義なものでしたか。

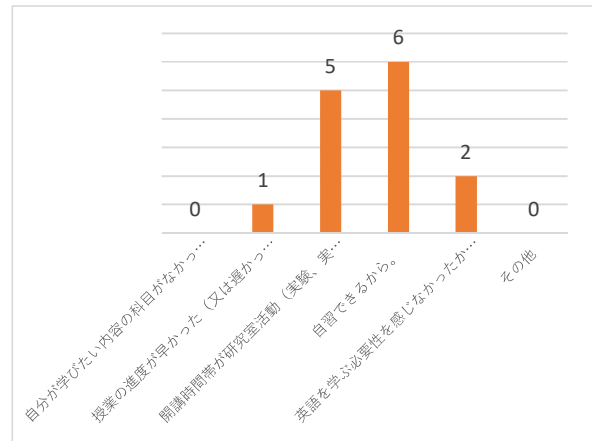
とても有意義であった	9
有意義であった	5
どちらとも言えない	1
有意義ではなかった	0



令和2年		令和3年		令和4年	
8/11	73%	17/19	89%	14/15	93%

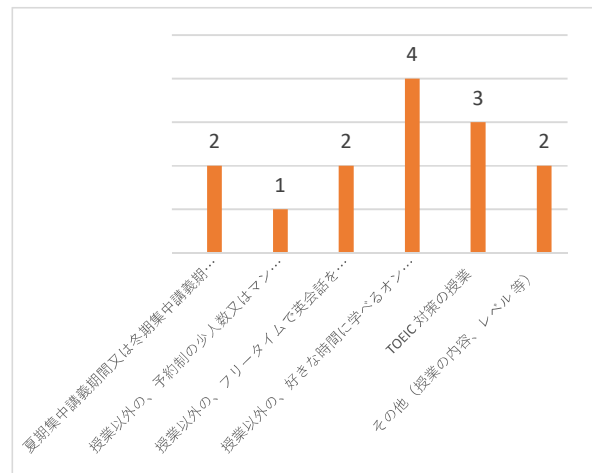
5. Exxx 科目を受講しなかった方にお聞きします。受講しなかった理由を教えてください。（複数回答可）

自分が学びたい内容の科目がなかったから。	0
授業の進度が早かった（又は遅かった）から。	1
開講時間帯が研究室活動（実験、実習、ゼミ等）と重複していたから。	5
自習できるから。	6
英語を学ぶ必要性を感じなかったから。	2
その他	0



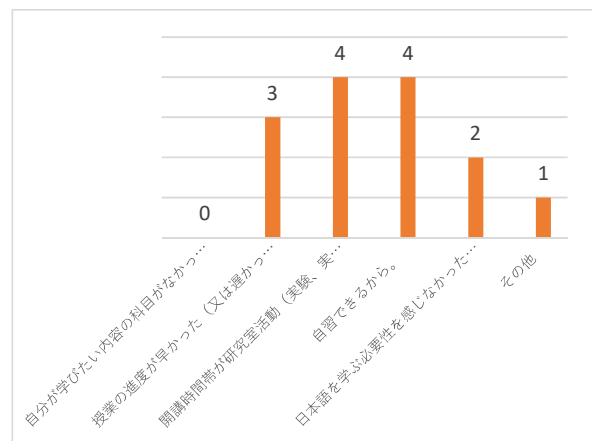
6. Exxx 科目を受講しなかった方にお聞きします。英語力向上のために、提供されていれば受講した、又は、利用したと思うものを選んでください。（複数回答可）

夏期集中講義期間又は冬期集中講義期間に開講するテクニカル英語科目	2
授業以外の、予約制の少人数又はマンツーマンのレッスン	1
授業以外の、フリータイムで英会話を学べる機会（英会話サロン等）	2
授業以外の、好きな時間に学べるオンラインレッスン	4
TOEIC 対策の授業	3
その他（授業の内容、レベル等）	2



7. 外国人留学生の方で、Jxxx 科目を受講しなかった方にお聞きします。受講しなかった理由を教えてください。（複数回答可）

自分が学びたい内容の科目がなかったから。	0
授業の進度が早かった（又は遅かった）から。	3
開講時間帯が研究室活動（実験、実習、ゼミ等）と重複していたから。	4
自習できるから。	4
日本語を学ぶ必要性を感じなかったから。	2
その他	1



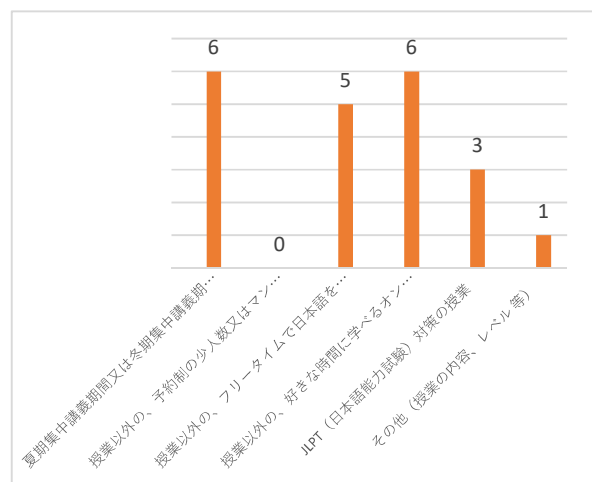
- （その他）
- ・ As i did not have plan to stay in Japan

8. 外国人留学生の方で、Jxxx 科目を受講しなかった方にお聞きます。日本語力向上のために、提供されていれば受講した、又は、利用したと思うものを選んでください。（複数回答可）

夏期集中講義期間又は冬期集中講義期間に開講するテクニカル日本語科目	6
授業以外の、予約制の少人数又はマンツーマンのレッスン	0
授業以外の、フリータイムで日本語を学ぶ機会（日本語による会話サロン等）	5
授業以外の、好きな時間に学べるオンラインレッスン	6
JLPT（日本語能力試験）対策の授業	3
その他（授業の内容、レベル等）	1

（その他）

・ Took help from my country students in JAIST



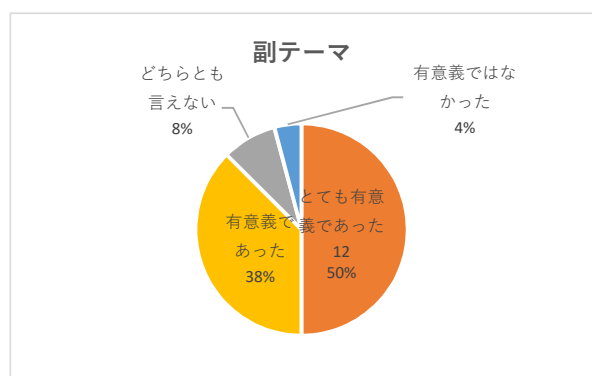
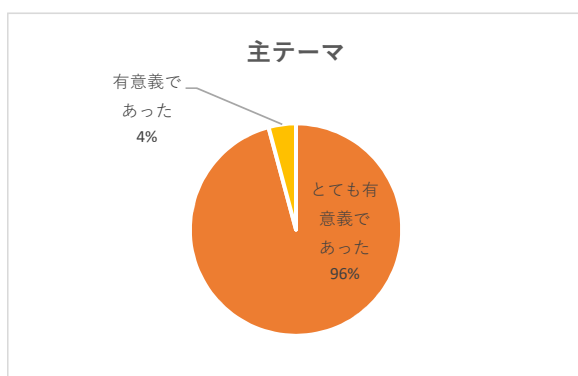
10. 社会人コース（東京サテライト）の修了者にお聞きます。講義や研究指導についてどう思いますか。

とても良かった	0
良かった	0
どちらとも言えない	0
悪かった	0

令和 2 年		令和 3 年		令和 4 年	
1/1	100%	2/2	100%	0/0	—

12. 本学では、幅広い基礎知識と能力の修得のため、主テーマ研究の他に副テーマ研究を設け、見識を広めて主テーマ研究に活かす制度をとっています。この主テーマ・副テーマ制度は、あなたにとって有意義な制度でしたか。

	主テーマ	副テーマ
とても有意義であった	23	12
有意義であった	1	9
どちらとも言えない	0	2
有意義ではなかった	0	1



主テーマ研究

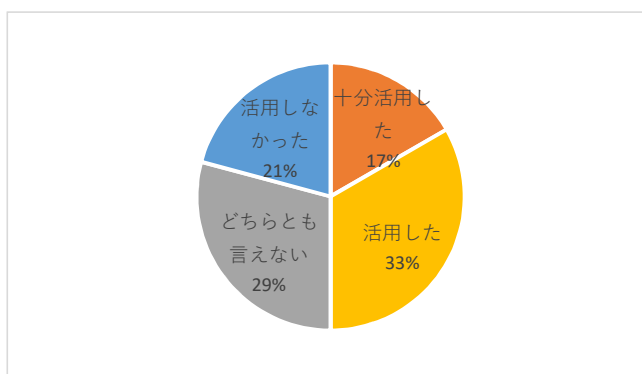
令和 2 年		令和 3 年		令和 4 年	
19/19	100%	24/24	100%	24/24	100%

副テーマ研究

令和 2 年		令和 3 年		令和 4 年	
18/19	95%	22/24	92%	21/24	88%

13. 本学では、計画的な履修を促すため、学修計画・記録書（旧履修計画書）の作成を求めています。この学修計画・記録書（旧履修計画書）は十分活用されましたか。

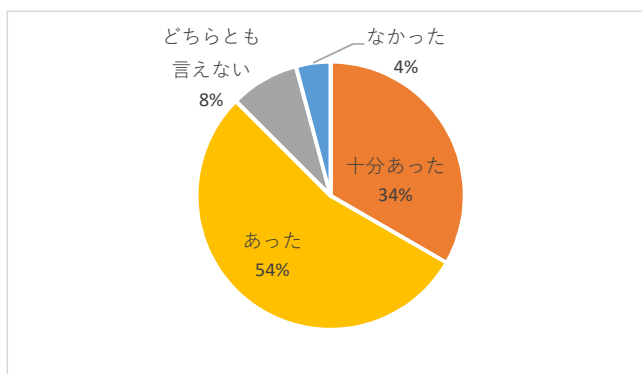
十分活用した	4
活用した	8
どちらとも言えない	7
活用しなかった	5



令和2年		令和3年		令和4年	
7/19	37%	12/24	50%	12/24	50%

14. 本学では、主体的な学修を促す仕組み（ゼミでの発表、講義におけるレポート提出、学生グループによる取組等）があったと思いますか。

十分あった	8
あった	13
どちらとも言えない	2
なかった	1



令和2年		令和3年		令和4年	
14/19	74%	23/24	96%	21/24	88%

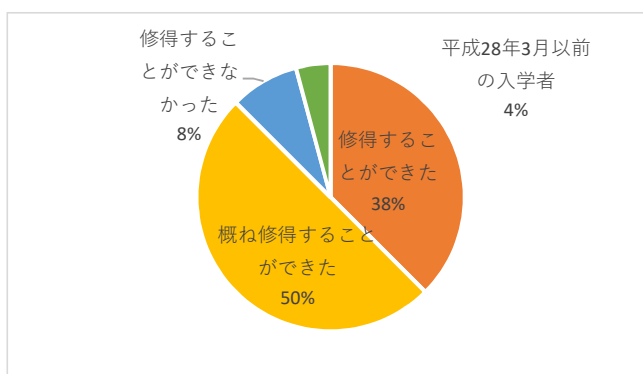
15. 【平成28年4月以降入学者対象】本学では、大学院大学として世界に通用する「知的にたくましい」人材の育成を掲げ、次のようなプログラム展開を行っています。

○「人間力強化プログラム」 「人間力」とは、「知的能力」、「社会対人能力」、「自己制御能力」の3要素からなり、本プログラムでは、知識科学の方法論に基づいた人間力強化の教育プログラムを、学術科目や広域科目の中で実施し、キーコンピテンシー（聴く力・考える力・伝える力・挑む力・進める力）を養成する。 個々人の学習（方法論の双方向講義）、グループワーク（自律学習）、ダブルルーラーニングによる学修を行うことにより、『幅広い視野と論理的思考力』、『コミュニケーションとリーダーシップ』、『主体性と忍耐力』を養う。

○「創出力強化プログラム」 「創出力」とは、「創造性」、「ものづくり」、「知識基盤社会」の3要素からなり、本プログラムでは、知識科学の方法論に基づいた専門知識を発展させることができる創出力の強化を、階層化された基幹科目や展開科目の履修及び研究指導の中で実施する。体系的な専門性を重視し、基幹科目、展開科目、先端科目を拡充して、学生が自律的に到達度を高められる教育を実践することにより、『発想力と評価力』、『情報収集力と計画力』、『表現力』を養う。

あなたにとって、本学の博士後期課程は、『「知的にたくましい」人材の養成に沿った教育』を受けることにより、上記のような力を修得することができましたか。

修得することができた	9
概ね修得することができた	12
どちらとも言えない	0
修得することができなかった	2
平成28年3月以前の入学者	1



令和2年		令和3年		令和4年	
10/11	91%	21/22	95%	21/24	88%

16. 本学では、研究科毎に次のような人材養成目的を掲げています。

・先端科学技術研究科：本学は、先端科学技術分野の基礎概念を理解し、その上で専門知識を活用する能力、多様な文化に対する理解力とコミュニケーション能力及び高い倫理観を持ち、自らの専門性を社会で活用する視点を持ちつつ、幅広く関連分野を俯瞰して問題を発見し解決できる研究者、高度専門技術者を育成し、社会や産業界のリーダーとなる力を養う。この目的に則して、各学位に対応し階層化された体系的な教育課程を編成する。

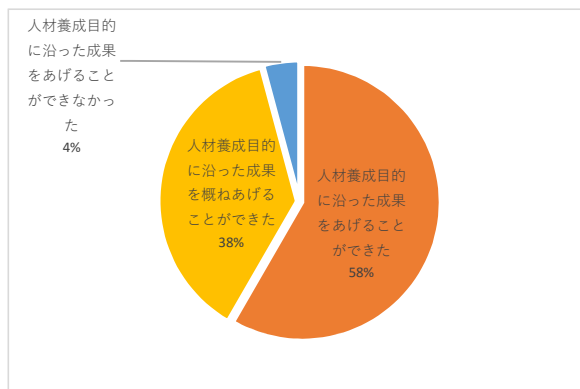
・知識科学研究科：自然、個人、組織及び社会の営みを、知識創造という視点に立って考究し、分野融合型の学問分野である知識科学を発展させつつ、優れた教育研究環境の下で、知識の創造、共有及び活用のメカニズムを探究する教育研究を行い、知識社会を担う高度な知識と応用力、幅広い視野と的確な判断力、高度のコミュニケーション能力、問題発見能力と問題解決能力を備えた研究者及び高度専門技術者を養成すること。

・情報科学研究科：基礎研究に重点を置く優れた教育研究環境の下で、最先端の教育研究を行い、情報科学の広範な研究分野の将来の発展を見据えて、これからの情報化社会の中核を担うための、高度な知識と応用力、問題発見能力と問題解決能力、幅広い視野と的確な判断力、高度のコミュニケーション能力を備えた研究者及び高度専門技術者を養成すること。

・マテリアルイェンス研究科：物理、化学、生物という広範な学問分野を統合した優れた教育研究環境の下で、基礎から応用までを包括する最先端の教育研究を行い、マテリアルイェンスの発展を支える高度の知識と応用力、幅広い視野と的確な判断力、高度のコミュニケーション能力、問題発見能力と問題解決能力を備えた研究者及び高度専門技術者を養成すること。

あなたにとって、本学の博士後期課程は、上記の「人材養成目的に沿った成果」をあげることができるものでしたか。

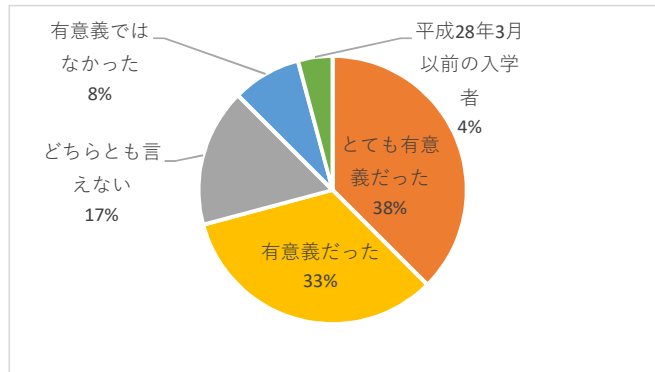
人材養成目的に沿った成果をあげることができた	14
人材養成目的に沿った成果を概ねあげることができた	9
どちらとも言えない	0
人材養成目的に沿った成果をあげることができなかった	1



令和2年		令和3年		令和4年	
17/19	89%	23/24	96%	23/24	96%

17. 【平成28年4以降入学者対象】本学では、入学後の1週間のオリエンテーションにおいて、学長講話、履修ルールの説明、研究室紹介、各学系・センター企画、語学教育・海外派遣、学生生活ガイダンス、進路ガイダンスなど様々な企画を実施し、本学の教育内容等を研修するとともに学生間の交流を図っています。あなたにとってこの取組は有意義なものでしたか。

とても有意義だった	9
有意義だった	8
どちらとも言えない	4
有意義ではなかった	2
平成28年3月以前の入学者	1

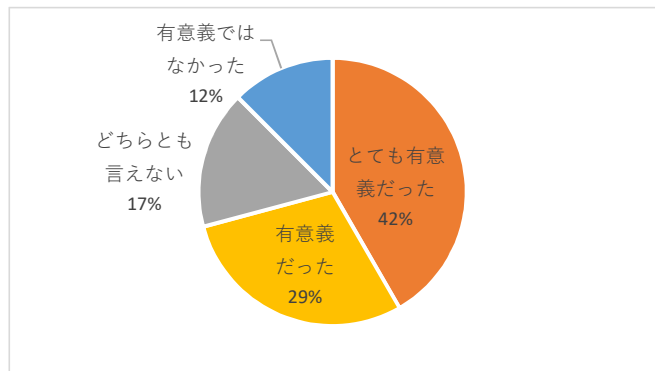


令和2年		令和3年		令和4年	
12/15	80%	21/23	91%	17/24	71%

< II 研究室指導体制について >

18. 本学では、学生1人に対して主指導教員、副指導教員、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員の3人が様々な課題や立場から教育研究指導する複数教員指導制をとっています。この制度は、有意義な制度だと思いますか。

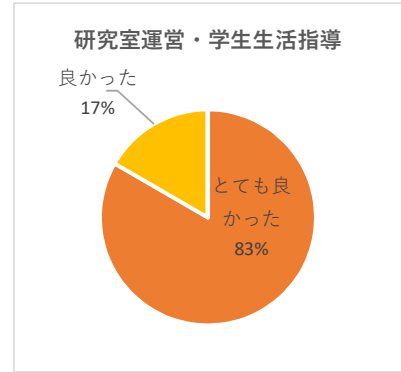
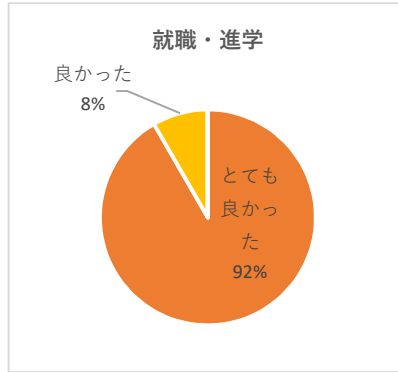
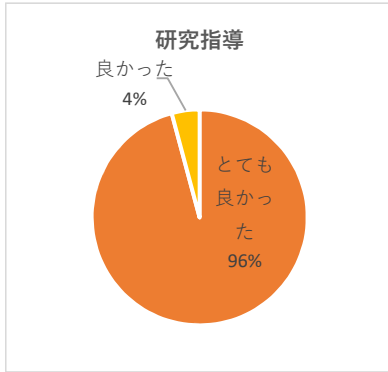
とても有意義だった	10
有意義だった	7
どちらとも言えない	4
有意義ではなかった	3



令和2年		令和3年		令和4年	
15/19	79%	24/24	100%	17/24	71%

19. 主指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

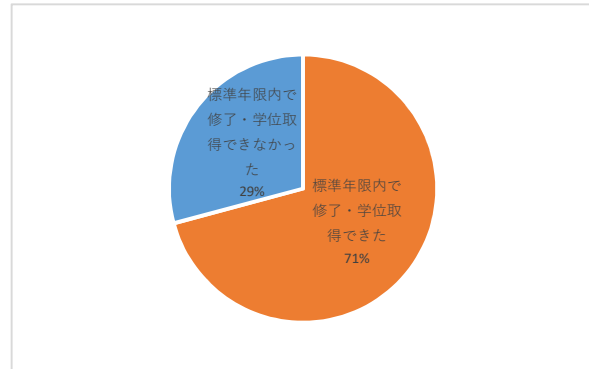
	研究指導	就職・進学	研究室運営・ 学生生活指導
とても良かった	23	22	20
良かった	1	2	4
どちらとも言えない	0	0	0
悪かった	0	0	0



研究指導	令和2年		令和3年		令和4年	
	19/19	100%	24/24	100%	24/24	100%
就職指導	令和2年		令和3年		令和4年	
	15/19	79%	23/24	96%	24/24	100%
研究室運営・ 学生生活指導	令和2年		令和3年		令和4年	
	18/19	95%	24/24	100%	24/24	100%

20. あなたは、標準修業年限（3カ年）で博士学位を取得できましたか。

標準年限内で修了・学位取得できた	17
標準年限内で修了・学位取得できなかった	7

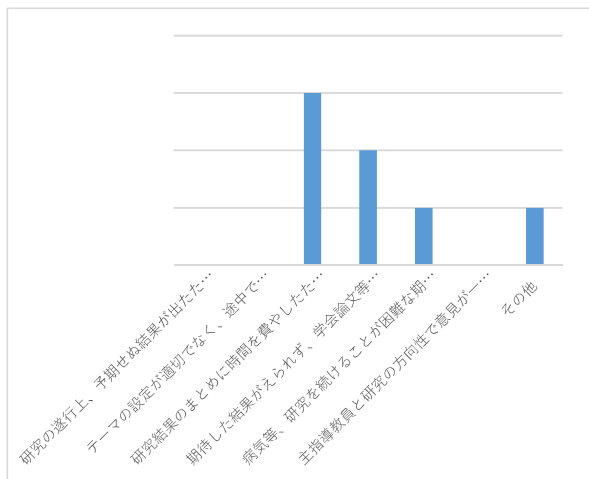


【標準年限を越えた理由】

研究の遂行上、予期せぬ結果が出たためである	0
テーマの設定が適切でなく、途中でテーマの変更をしたためである	0
研究結果のまとめに時間を費やしたためである	3
期待した結果がえられず、学会論文等が受理されなかったためである	2
病気等、研究を続けることが困難な期間があったためである	1
主指導教員と研究の方向性で意見が一致しなかったためである	0
その他	1

(その他)

I had to change my supervisor due to his illness.

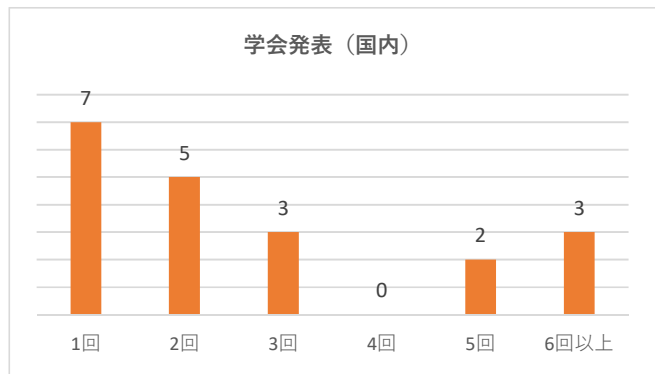


21. 本学博士後期課程在学中に学会発表は何回行いましたか。また、そのうち旅費等の助成を何回受けましたか。

【学会発表】

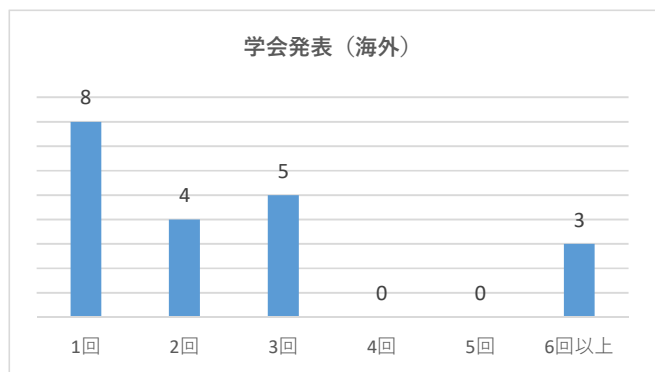
国内

1回	7
2回	5
3回	3
4回	0
5回	2
6回以上	3



海外

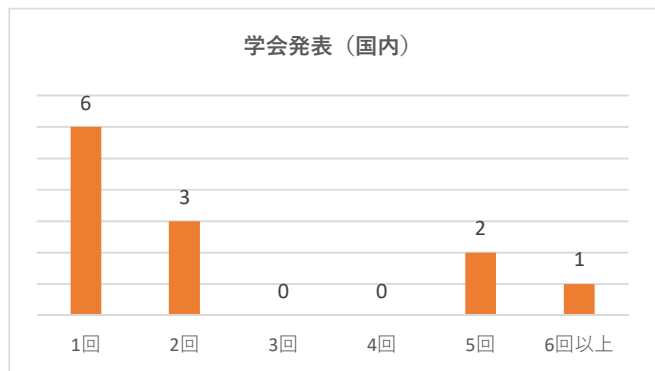
1回	8
2回	4
3回	5
4回	0
5回	0
6回以上	3



【うち費用助成あり】

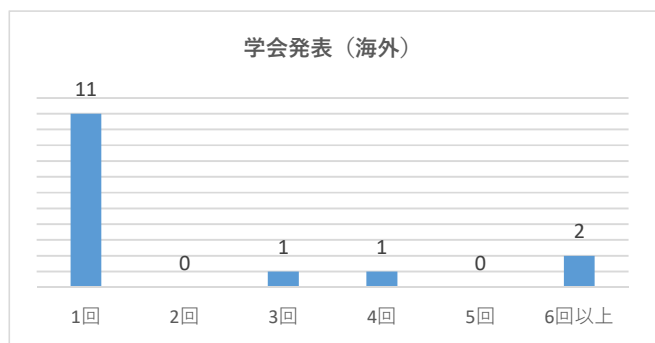
国内

1回	6
2回	3
3回	0
4回	0
5回	2
6回以上	1



海外

1回	11
2回	0
3回	1
4回	1
5回	0
6回以上	2



22. 博士後期課程では、研究留学及び学外研修（インターンシップ）を奨励しています。あなたはそれらに参加しましたか。

研究留学に参加した	6
研究留学に参加したかったが、参加できなかった	18

【参加できなかった理由】

COVID-19

Time limitation

minor research

MEXT Scholarship does not encourage

I did a minor research project in JAIST.

I am a MEXT scholar.

That was a great opportunity to change the experience with other reseachers.

I had to change my supervisor and my research topic was changed due to this.

I had planned to participate in overseas research, but I had to cancel my plan due to the covid-19 outbreak

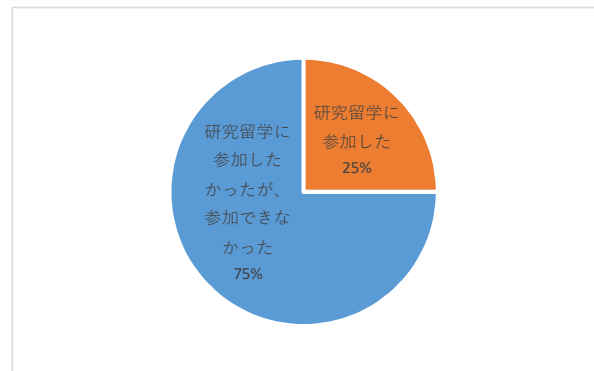
I can't do it outside of campus because of the covid 19 pandemic

知っていませんでした。

主テーマ研究を重視したため

実験が忙しいでした

コロナ禍の中で海外に行くのは困難なため、研究留学をやめました。



学外研修（インターンシップ）に参加した	4
学外研修（インターンシップ）に参加したかったが、参加できなかった	20

【参加できなかった理由】

COVID-19

Time limitation

minor research

I registered for minor research

I have got engage in minor research project.

I don't want to participate in an off-campus internship.

I did not plan for it when participated in JAIST.

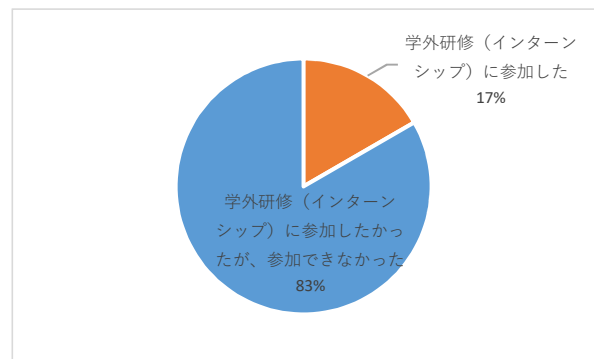
I can't do it outside of campus because of the covid 19 pandemic

主テーマ研究を重視したため

実験が忙しいでした

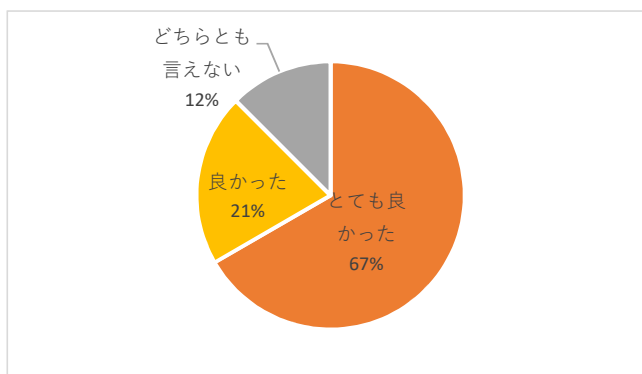
研究で忙しく参加できませんでした。

コロナ禍の中で海外に行くのは困難なため、研究留学をやめました。



23. 副指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

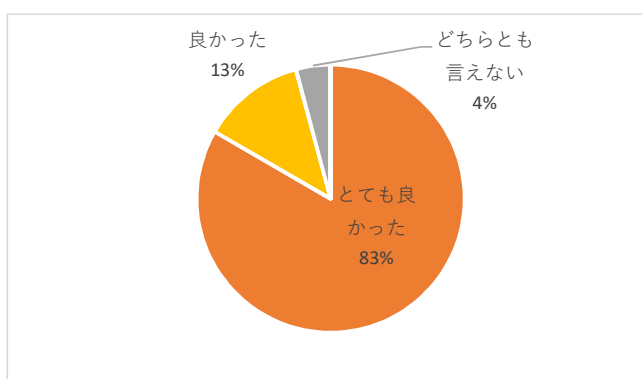
とても良かった	16
良かった	5
どちらとも言えない	3
悪かった	0



令和2年		令和3年		令和4年	
18/19	95%	21/24	88%	21/24	88%

24. 副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

とても良かった	20
良かった	3
どちらとも言えない	1
悪かった	0

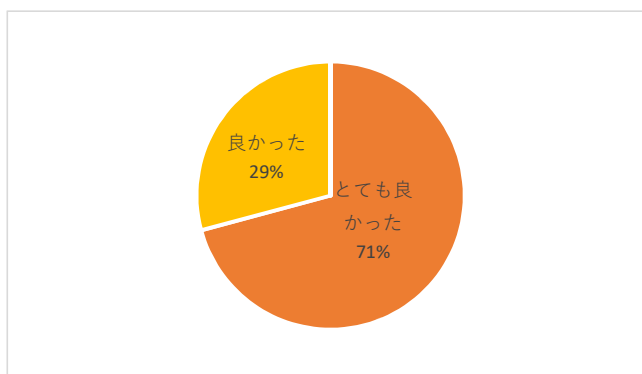


令和2年		令和3年		令和4年	
17/19	89%	22/24	92%	23/24	96%

< III 学生支援等について >

25. 教育支援課、学生・留学生支援課の事務職員の全体的な対応について、どのような感想を持っていますか。

とても良かった	17
良かった	7
どちらとも言えない	0
悪かった	0

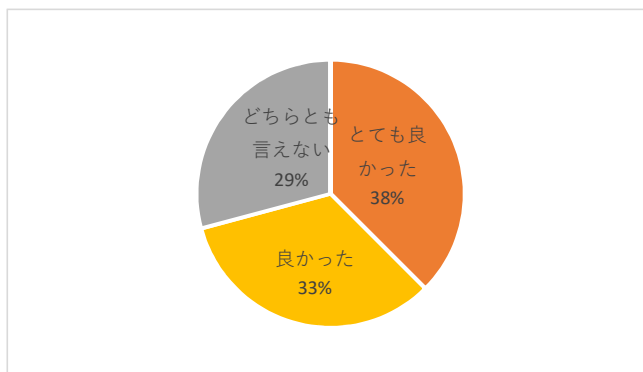


令和2年		令和3年		令和4年	
16/19	84%	24/24	100%	24/24	100%

<Ⅳ キャリア形成支援等について>

29. 本学では、全学一体となったキャリア形成支援・就職支援行事を学生・留学生支援課就職支援室と就職担当教員が連携し実施しています。また、企業への博士号保有者の就職に力を入れています。これらの支援策について、どのような感想を持っていますか。

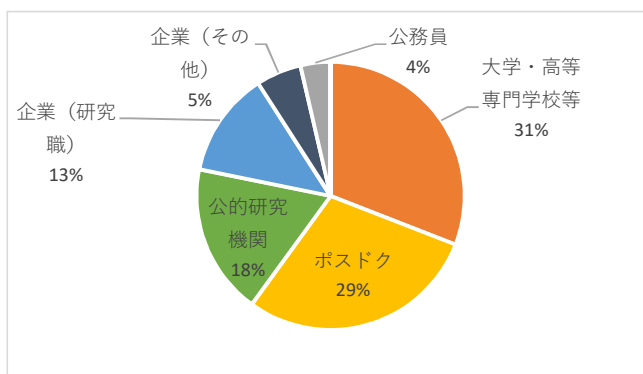
とても良かった	9
良かった	8
どちらとも言えない	7
悪かった	0



令和2年		令和3年		令和4年	
9/15	60%	15/20	75%	17/24	71%

30. 就職先候補として検討したものについて、該当する項目を全て選択してください。（複数回答可）

大学・高等専門学校等	17
ポストク	16
公的研究機関	10
企業（研究職）	7
企業（その他）	3
公務員	2
その他	0



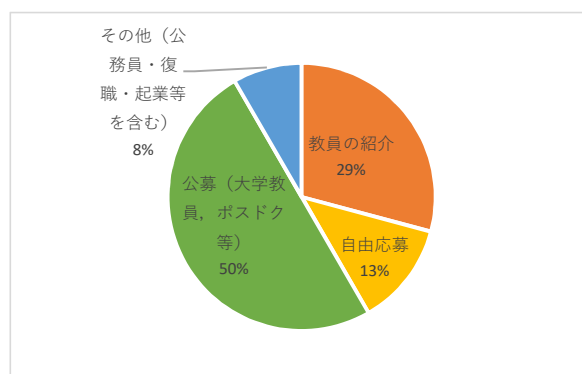
31. 就職先への応募方法について、該当の項目を選択してください。

教員の紹介	7
自由応募	3
公募（大学教員，ポストク等）	12
その他（公務員・復職・起業等を含む）	2

（その他）

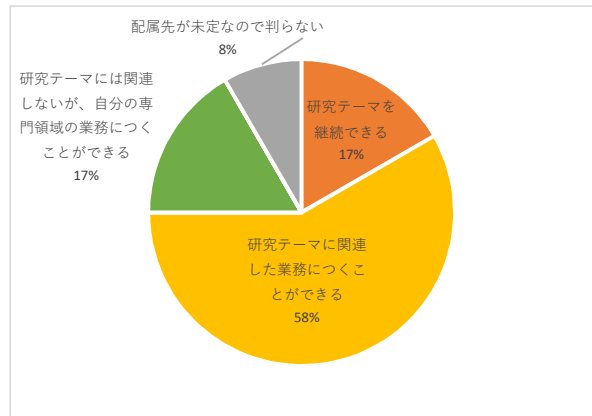
I had a job in my country.

Self finding



32. 博士論文研究のテーマと就職先の業務との関連性について該当の項目を選択してください。

研究テーマを継続できる	4
研究テーマに関連した業務につくことができる	14
研究テーマには関連しないが、自分の専門領域の業務につくことができる	4
研究テーマにはまったく関連しない業務である	0
配属先が未定なので判らない	2



33. 在学中に企業インターンシップに参加しましたか。参加した場合には、参加期間を記入してください。

参加した	1
参加していない	23

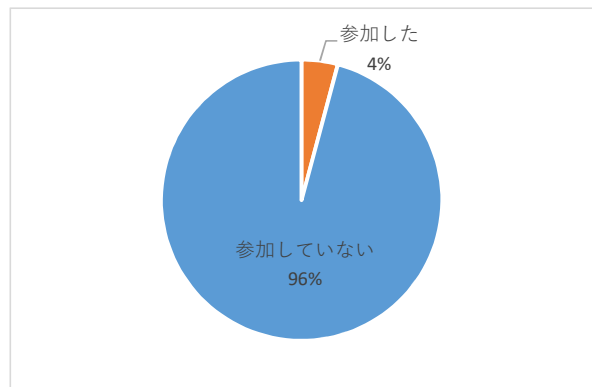
(参加した1名について)

参加企業数：1社

参加日数：22日

Q.インターンシップは副テーマに代えて実施することができますが、どのような形で実施しましたか。

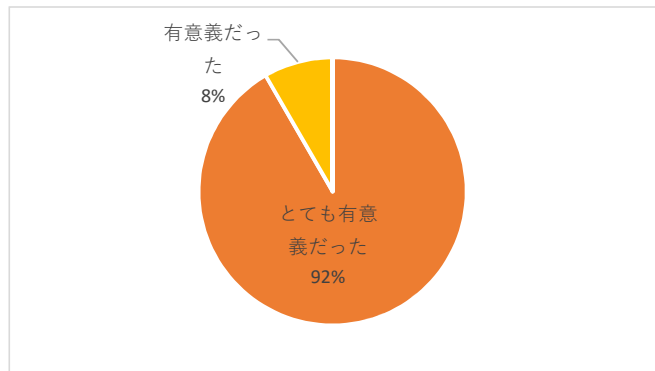
副テーマに代えることができた	0
純粋にインターンシップとして実施した	1



< V 本学の満足度及び成果について >

34. あなたにとって本学の博士後期課程は有意義でしたか。

とても有意義だった	22
有意義だった	2
どちらとも言えない	0
有意義ではなかった	0



令和2年		令和3年		令和4年	
19/19	100%	24/24	100%	24/24	100%